

各位

会社名	株式会社ダイサン
代表者名	代表取締役社長 藤田 武敏 (コード：4750、東証第二部)
問合せ先	戦略企画本部 本部長 多留 健二 (TEL. 06-6243-6341)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年3月2日開催の取締役会において、2021年6月2日に公表いたしました2022年4月期の通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年4月期通期連結業績予想数値の修正（2021年4月21日～2022年4月20日）

	売上高 (連結)	営業利益 (連結)	経常利益 (連結)	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 9,200	百万円 230	百万円 255	百万円 50	円 銭 7.80
今回修正予想 (B)	9,500	△70	0	0	0.00
増減額 (B-A)	300	△300	△255	△50	
増減率 (%)	3.3	—	—	—	
(参考)前期連結実績	8,653	△131	177	34	5.42

(注) 上記の業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づいて作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 修正の理由

2022年4月期通期の連結業績予想につきましては、連結営業利益、連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回発表予想を下回る見込みとなったため、修正いたします。

修正の主な要因として、施工サービス事業においては、主要な取引先である大手ハウスメーカーでは受注に回復の動きがみられるものの、建設業における技能職採用は依然として厳しい状況であり、コロナ禍による入国制限によって、特定技能及び外国人技能実習生の採用も難しく、施工人員の確保が行えない状態が続いております。そのため、顧客からの発注に対し、期末までは十分に対応できないものと想定しております。このような中であっても、施工スタッフの処遇改善を目論み、従来から進めている請負契約者の社員化を推進し、賃金引き上げなど、技能職の給与見直しも図っていることから、人件費を中心に固定費は増加しております。その分、顧客への受注単価増額の交渉を続けているものの、コストが先行していることから、利益は当初予想を下回る見込みとなりました。

製商品販売事業においては、建設業全体で住宅を中心とした民間工事が堅調に推移しており、工事会社においては足場資材に対する需要がある程度見込めるものと考えております。当期においては、主力製品である「ビケ足場」に対する引き合いが増え、想定を超える受注が確保できているものの、鋼材価格の高騰により一部製品の価格を改定したことと、地政学的なリスクの高まりが世界的な原材料の供給不足に影響することが懸念されるため、売上高、利益とも前年同期に対する伸びは、当初予想より鈍化するものと考えております。

海外事業部において、在外子会社のあるシンガポールでは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、これまでも国外からの労働者の入国に厳しい規制がなされていたことから、労働力確保が困難な状況が続き、コストの高い外注業者を利用する機会が増えておりましたが、顧客に対する受注単価の増額交渉を続けるなど、継続して利益率の改善に取り組んでおります。引き続き入国制限は続くものと想定していることから、計画していた稼働を充たすことができず、利益は予想を下回る見込みとなりました。

その他、中期経営計画で定めている重点取り組み「新市場の創造と東南アジアでのビジネス基盤確立」と「未来社会に貢献するヒト創りと商品サービスの開発」の推進に向け、体制整備のために人的資源を拡充したことから、本社管理部門における販管費は、予想を大きく上回る見込みとなりました。

なお、現時点において、配当予想についての修正はございません。

以上